

- 南砺市農業の概況
- 有機農業取り組みの経緯
- 有機農業取り組みの概要
- まとめ

地域資源の活用で生み出した資金を地域づくりへ

空き家活用型仕事の場合創出
(空き家・空き店舗活用)

なんと未来創造塾

特定地域づくり事業協同組合

経済 新しい価値を生むことが
「できる」地域を実現



取組 伝統ある地場産業とコンテンツ
産業による地域経済の活性化

ECサイトによる販路拡大

女性の起業・創業支援

オーガニックビレッジ宣言

土徳文化
文化伝承や
発信による
地域の誇り醸成

三側面をつなぐ統合的取組

相互補完・循環

南砺幸世
未来基金
活動資金や
人的ネットワーク等
を支援

小規模
多機能自治
住民参加による
真の住民自治の
再構築

社会 心豊かで安心して暮らす社会、
市民主体の課題解決に結びつく
多面的活動を推進



地域の伝統文化と南砺らしさを継承し
全ての人が健康で安心して暮らせる
社会の構築

地域包括ケアシステム

断らない相談窓口

ボクなん

こども権利条例
(こども部会)

エコビレッジ部活動

環境 豊富な地域資源を活用し、
自然と共生するライフスタイルを発信



取組 地域資源を活用・循環させ
ワクワクする「懐かしい未来」を実現
・環境に負荷の少ない暮らし方

木質バイオマス事業

森の学校

オーガニックビレッジ宣言

南砺らしい暮らしの
提案や学びが進み
自然との共生や環境負
担が少ない暮らしへ

茅場の再生

合掌造り家屋保存

エコビレッジ住宅ゾーン

地域新電力

再エネ開発

農業シェアリング

地域資源を活かした
エネルギー事業で
地域経済の活性化へ

有機農業取り組みの経緯

(背景・課題)

- ・ 農業経営体が減少している（H27比：27.3%減少）
- ・ 経営耕地面積は田、畑、樹園地の全てにおいて年々減少傾向にある
- ・ 農業従事者は、60歳以上が全体の約8割を占め高齢化が顕著。59歳以下は減少傾向

◎担い手不足・農業従事者の減少・高齢化が最大の課題

- ・ 一方で、近年、就農相談等では、有機農業者を志す方（移住希望者）が多い
- ・ しかし、有機農業は、作業量が増大、かつ栽培の難しさなどにより、安定的な生産及び収量・品質の確保が困難であること、さらには販売ルートの確保、販売戦略も必要となり、有機農業を継続し、独立経営していくには大きなハードルがある。

・ 南砺市内には、先駆的に有機農業に取り組んでおられる方がおられ、複数の有機農業者グループが存在。それぞれが栽培技術、販売チャンネルなどを持っていること、様々な場面で相談・交流ができる土壌がある。



そういった方々と連携を強化しながら、
厳しい環境下にある中山間地域において、付加価値の高い有機農業に取り組むことで、耕作放棄地の発生防止や、若い新規就農者の受入れによる地域活性化を推進する



有機農業取り組みの経緯

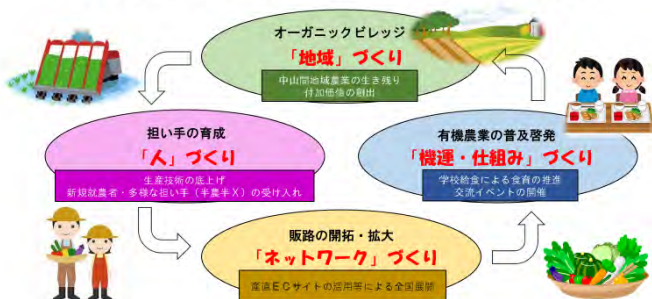
南砺市の強み

- ・南砺市には「人」、「人づくり」体制がある。
- ・県内の有機農業者のうち、約33%が南砺市が占める。
- ・有機農業者グループは、南砺市内だけでなく、県内の有機農業者を含めた団体もあり、生産技術や販路開拓、人材育成など幅広い分野で有機農業者を支えている。

南砺市オーガニックビレッジ宣言

- ・南砺市には豊かな自然を守り、人との繋がりを大切にする風土があります。その精神を大切にし、**長年、有機農業を培ってこられた先達となる農業者と、近年、有機農業を志す新規就農者**により、持続可能な農業に対する機運が高まりつつあります。そのような中、関係者が一丸となって、とりわけ**厳しい環境下にある中山間地域において、付加価値の高い有機農業に取り組むことで、耕作放棄地の発生防止や、若い新規就農者の受入れによる地域活性化を推し進めたい**と考えています。
- ・有機農業を進めることにより**南砺市ならではの「農」と「食」の魅力**を国内外に発信できるよう体制整備を進めるとともに、地域全体の更なる発展を目指し、ここに「オーガニックビレッジ宣言」をします。
- ・また、**SDGsも積極的に推進**しており、オーガニックビレッジを進めることで、農業の側面から持続可能な地域づくりにも寄与していきたいと考えています。

南砺市『オーガニックビレッジ』構想



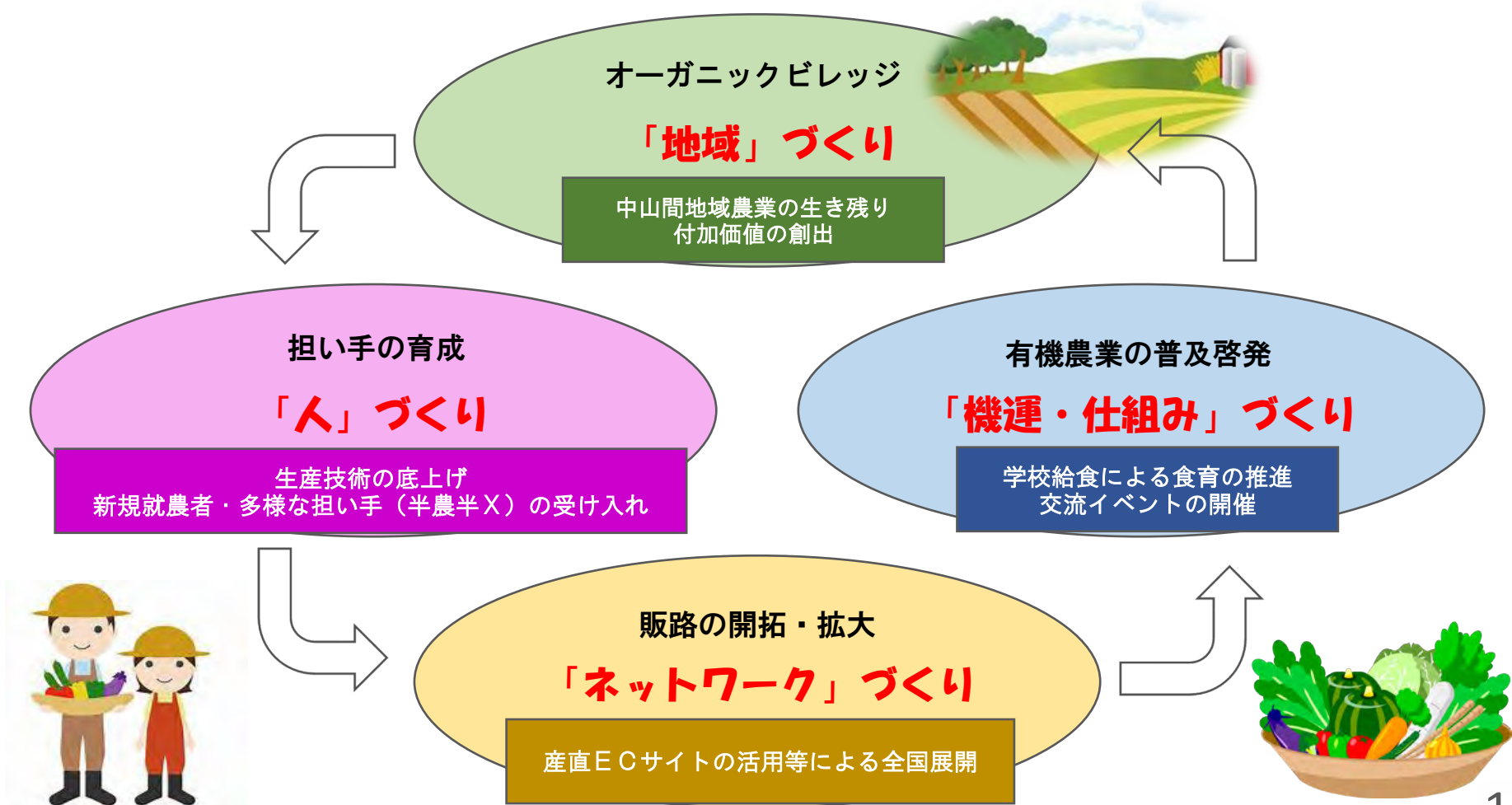
令和5年4月4日

南砺市長

田中幹夫

- 南砺市農業の概況
- 有機農業取り組みの経緯
- **有機農業取り組みの概要**
- まとめ

4本の柱を循環⇒有機農業の拡大を図る



有機農業取り組みの概要

「地域」づくり

五箇山地区（有機農業空白地域）における有機農業の初展開

有機農業による栽培実証試験圃（50a）の設置、
乗用除草機の導入、アイガモロボ導入による労働力削減
地元企業とのタイアップ（販路先確保）

伝統野菜「五箇山かぶら」の復活・生産拡大

他品種との交配を防ぐため、人里離れた山あいの耕作放棄地を復旧し、
有機栽培により在来品種「五箇山かぶら」の優良な種を確保



五箇山地区内にある
「世界遺産合掌造り集落」

「人」づくり

収量・品質の安定生産に向けた生産技術力の向上

先進農家へ出向き、土づくりの実地研修の開催
講習会・研修の実施
（仮称）南砺市オーガニックスクール構想
農業者同士をつなぐ地域おこし協力隊の採用



「ネットワーク」づくり

“外”に向けた販売戦略による南砺市有機農産物の知名度向上・ファンの獲得

産直ECサイトの活用による販路開拓・拡大
武蔵野市での交流イベントの開催ほか
五箇山御膳の開発

南砺野菜 定期配送便



「機運・仕組み」づくり

“内”に向けた有機農業への理解の醸成・地産地消（学校給食）による安定供給体制の強化

生産者と消費者との農作業体験等交流イベント（年間を通じた体験農園）の開催
生き物調査の実施による環境負荷軽減効果のデータ収集・分析
有機農産物生産動画の作成による食育の推進
学校給食による食育の推進・有機農産物の集荷配送体制の確立
（なんと自然給食ものがたり）



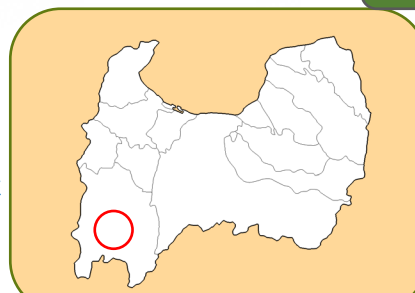
有機農業 空白地域での拡大への挑戦

「地域」づくり

～五箇山地域～

- ・世界遺産五箇山合掌造り集落のある標高300～600mの中山間地域
- ・少子高齢化が著しい地域で、集落営農組織が組織されないため、市が出資した「公益財団法人 五箇山農業公社」が、農業機械を使用する基幹作業を担う
- ・今まで、有機農業の実績はない

五箇山農業公社が中心となって、今まで実施することがない有機農業に挑戦！！



〔実証圃場〕
富山県南砺市五箇山地域
(約50a)



◎推進体制の確立

基幹作業

当地区の「公益財団法人 五箇山農業公社」が育苗、田植え、稲刈りを担当しています。

乾燥調製は、地元の「なんと農業協同組合」が請け負っています。



中間管理作業

当地区の「NPO法人 雪峯倶楽部」が水管理と除草作業を担当しています。

アイガモロボを導入し、省力化を図っています。



病虫害対策

市内の先進農家の指導を受けながら、栽培管理を行っています。

R4は、お盆後の長雨による日照不足と多湿が影響し、穂イモチ病が発生するなど、病虫害対策と収量確保に苦労しました。

